

## 2022 年度変更について

採点規則 2022 年版の発行に伴い、以下の点が 2015 年版（2021 年改定まで含む）からの変更となります。なお条項番号は 2022 年版のため、2015 年版とは異なりますのでご注意ください。

### <概略>

- 1 転回系の変更  
側方倒立回転を転回系から除外
- 2 団体競技の構成に加点を導入  
構成 (D) 技術的価値と全体の調和 (9.00) ボーナス加点 (1.00 点)
- 3 個人競技のボーナス加点を一部追加  
構成 (D) 技術的価値と全体の調和 (9.00) ボーナス加点 (1.00 点)

### <競技規則にかかわる変更>

#### 1 競技規則

##### 第 39 条 競技者の服装（追加）

競技者の服装は身体にフィットする体操用上着・体操用ズボンで、頭・顔・首・手・腕以外は肌が見える状態にしてはいけない。色は自由で不透明な布とする。装飾のスパンコール等は可とするが、**厚みは 10 mm までとし、固定されていなければならない**。また、所属マークを上半身の前面または上腕部で審判が確認できる場所につけなければならない。

### <採点規則にかかわる変更>

#### 1 一般的な採点規則

##### 第 18 条 演技開始までの時間（追加）

入場から演技開始までの時間が次の時間を超えた場合は減点とする。**ただし音楽機器の不具合や音楽係の操作ミスによるものは除く。**

団体競技… 30 秒 個人競技… 20 秒

実施主任審判より減点… 0.20 点

##### 第 19 条 演技面への入退場（追加）

呼び出し後の演技面への入退場は、徒歩またはかけ足で速やかに行わなければならない。

**違反した場合 審判長より警告**

**警告に従わない場合 実施主任審判より減点… 0.20 点**

##### 第 24 条 選手規律違反および監督の規律違反

減点 0.20 → 減点 0.50

#### 2 団体競技

##### 第 31 条 転回運動の定義（新規）

転回運動とは空中局面を伴う 180 度以上の縦回転の運動をいう。ただしひねりを伴わない片足踏切の跳び前転は除外する。

##### 第 41 条 ボーナス加点（新規）

###### 1 独創性の採点（最大 0.20 点）

加点：項目一つにつき… 0.10 点 最大 0.20 点

###### 2 追加の難度（下の（1）～（5）で最大 0.80 点まで）

###### （1）同じ転回技に対する加点（最大 0.30 点）

###### ① 6 人全員が 4 つ以上の連続する同じ転回技を行った場合

加点… 0.10 点

- ② 6人全員が4つ以上の連続する同じ転回技を同時に行った場合  
加点…0.20点
- ③ ②をD難度で行った場合  
加点…0.30点
- (2) 着地に対する加点 (最大0.20点)
  - ① 6人全員が一つのシリーズの終末技で、宙返りから足の裏で着地を止めた場合  
加点…0.10点
  - ② 6人全員が一つのシリーズの終末技で、同時に宙返りから足の裏で着地を止めた場合  
加点…0.20点
- (3) 交差技に対する加点 (最大0.20点)
  - ① 基礎難度Cの転回技で3段以上の交差を行った場合  
加点…0.10点
  - ② ①に基礎難度Dの転回技が含まれていた場合  
加点…0.20点
- (4) 同一難度に対する加点 (最大0.20点)
  - ①6人全員が一つのシリーズで、各々がD難度の転回技を行った場合  
加点…0.20点
- (5) 徒手系難度の加点 (最大0.40点)
  - ①6人全員が基礎難度Bの柔軟、倒立またはバランスをした場合  
加点…その都度0.10点
  - ②6人全員が基礎難度Cの柔軟、倒立またはバランスをした場合  
加点…その都度0.20点

第42条 構成欠点表 (旧41条から削除変更)

音楽と動きの関係	音楽の性格が演技の適応性に欠けている。	0.20点
	音楽のリズムと演技内容が合致していない	
独創性	新しい技術や新しい組み合わせ	

第45

条 3 音楽との調和と芸術的表現 (旧44条3から追加変更)

芸術的表現とは身体の動きの技術を用いて、音楽のテーマや構成のメッセージを観衆に表現し伝え感動させることをいう。

音楽との調和と芸術的表現は以下の項目で採点される。

- 1 音楽と動きのイメージの一致
- 2 音楽と動きのリズムの一致

第47条 実施の減点 (旧46条から変更)

実施減点表内の「運動の本質を離れ誇張して演技を行った場合」

減点0.20 → 減点0.30

徒手系の技術	全体を通じて美しい姿勢に欠けた場合
	全体を通じて柔軟性に欠けた場合
	全体を通じてみぞおちから始まる動きや、その自然性や動きの幅、大きさに欠けた場合
	全体を通じて膝の踏み込みを深く使う運動に欠けた場合
	跳躍の高さに欠けた場合
	全体を通じて四肢の動きの制御に欠けた場合
	全体を通じて踵を引き上げた動きに欠けた場合

	全体を通じて動きの間やアクセント、また張りや活気にかけた場合
	全体を通じて運動のつなぎの技術に欠けた場合

### 3 個人競技

#### 第 60 条 2 追加の難度（最大 0.80 点）（旧 59 条から追加）

(1) D 難度の数

②構成中に 5 つ以上の D 難度が入っている場合。 加点：0. 20 点

(3) 難易度の高い連続した投げ受け

①リング・クラブで次々に投げる投げ受けに、D 難度の内容が含まれていた場合。  
加点：0. 10 点

②投げた手具を受けると同時に投げ受けをする技に、D 難度以上の内容が含まれていた場合。  
加点：0. 10 点

(5) 視野外の投げ上げや受け取り、手以外での投げ上げや受け取りが入っていた場合。  
加点：その都度 0. 10 点

#### 第 63 条 身体の動きの技術（旧 63 条 3 一部削除）

リズムカルな実施 →新 65 条へ移行

#### 旧第 64 条 ボーナス加点（削除）

#### 第 65 条 芸術性と音楽の採点（新規追加）

芸術性とは手具を扱う技術と身体の動きの技術を用いて、音楽のテーマと構成のメッセージを観衆に表現し伝え感動させることをいう。

芸術性は以下の項目で採点される。

(1) 音楽と動きのイメージの一致

(2) 音楽と動きのリズムの一致

#### 第 66 条 実施欠点表（旧 65 条から追加変更）

徒手系の技術	全体を通じて美しい姿勢に欠けた場合
	全体を通じて柔軟性に欠けた場合
	全体を通じてみぞおちから始まる動きや、その自然性や動きの幅、大きさに欠けた場合
	全体を通じて膝の踏み込みを深く使う運動に欠けた場合
	跳躍の高さに欠けた場合
	全体を通じて四肢の動きの制御に欠けた場合
	全体を通じて踵を引き上げた動きに欠けた場合
	全体を通じて動きの間やアクセント、また張りや活気にかけた場合
	全体を通じて運動のつなぎの技術に欠けた場合

### 4 難度（旧 66 条から追加変更削除）

#### 徒手系難度

##### 2 バランス

3	足を保持した片足平均立ち	A	B
6	足を保持しない 135° 以上の開脚片足平均立ち（上体は水平以上）	B	C
7	足を保持しない 180° 以上の開脚片足平均立ち（上体は水平以上）	C	D

#### 4 柔軟

1	長座になり体前屈（顔が足につく）	A	B
2	左右開脚座で体前屈（胸が床面につく）	A	B
3	左右開脚座、又は前後開脚座（脚は一直線・180度）	A	B
4	左右開脚座、又は前後開脚座（脚は一直線・180度）前屈	B	C
5	左右開脚座、又は前後開脚座（脚は一直線・180度）仰臥位	B	C

#### 転回系難度

##### 1 跳びひねり系

5	後ろとび1回半ひねり正面支持臥	B	C
---	-----------------	---	---

##### 2 前方系

1	首はねおき（直立・膝立ち）、頭はねおき（直立・膝立ち）	A	A
---	-----------------------------	---	---

##### 3 後方系

1	後ろ首はねおき（直立・膝立ち）	A	A
---	-----------------	---	---

##### 4 側方系

1	側方倒立回転（肘付き側方倒立回転は除く）	A	A
---	----------------------	---	---

#### 5 国スポ用変更規則について

##### 5人制団体競技適用規則（新規）

次に示すものを除き、（公財）日本体操協会男子新体操規則による。

##### 1 人数

演技は5名で実施するものとし、4名の場合は1.50点の減点とする。

##### 2 難度

6人で実施した場合に認められる難度及び追加の難度を、5人で実施した場合に認める。

##### 3 要素

6人全員が実施した場合に認められる要素を、5人全員が実施した場合に認める。

##### 4 採点

構成の採点で、隊形の変化や空間使用の多様性の採点では、6人制団体と比較して採点はしない。